
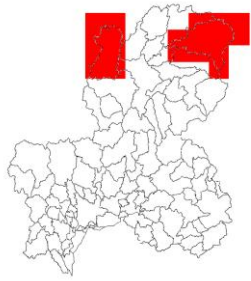


ハリノキテンナンショウ	<i>Arisaema ishizuchiense</i> Murata subsp. <i>brevicollum</i> (H.Ohashi et J.Murata) Seriz. var. <i>alpicola</i> Seriz.	絶滅危惧 I 類
		サトイモ科
選定理由	分布が局限されていて、個体数が少ない。	写真(岐阜大学教育学部標本室)
形態の特徴	高さ10-30cmの多年草。葉は1個で、偽茎部は非常に短く、葉柄部は10-30cm。葉身は5枚の小葉に分裂する。小葉は長楕円形あるいは披針形、ときに不規則な鋸歯がある。花序は葉より少し早く伸長するが、後に花序柄は葉柄とほぼ同長になる。仏炎苞は淡紫褐色で紫色の斑紋が多く、特に舷部の外面は緑色を帯びる。花序付属体は細い棒状、有柄。	
生態的特徴	日本海側の多雪地帯に生育する。花序と葉は6-7月に出現する。	
分布状況	中部地方の日本海側に分布する。岐阜県では飛騨地方北部に見られる。	
減少要因	開発などによる生育地の破壊、山草愛好家による採取。	
保全対策	生育地の保全と採取の禁止。	
特記事項		
参考文献		

文責: 高橋弘